

SIG-10

コンピテンシースタンダードと能力評価手法の開発

(略称：能力規準と評価法開発)

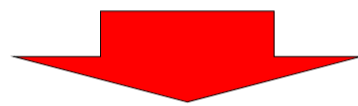
代表：玉田和恵 (江戸川大)

副代表：萩生田伸子 (埼玉大)・SIG委員：松田稔樹 (東工大)

岡田佳子 (芝浦工大)・遠藤信一 (東工大附属科学技術高校)

背景

- 諸外国では、教育課程の基準や学力保証に関わる能力評価規準を学術団体が主導で作成している。
- 次期学習指導要領では、教科横断的資質・能力の育成を重視する方向性が中教審に諮問され、高大接続試験でも教科横断的能力を測定することが提言されている。
- Wiggins & McTighe(2006)の「逆向き設計の理論」など、スタンダードとカリキュラム、授業設計を関連づけ、教員の資質向上へ結びつけようとする活動もある。



目的

- 既設のSIGとも連携を図れる串刺しのミッションとして、既存の教科教育学会ではできない、教科横断的能力のスタンダードとその能力評価方法の開発・見直しの方法論を定式化することを目指す。
- 各SIGで議論される方法論を応用目的に対して洗練、一般化しつつ、相互連携への議論の場を提供する。

9月23日の進行予定

- 14:10~14:40 (以下、時刻は目安です)
- 本SIG設立までの経緯と趣旨説明+質疑応答

- 14:40~16:10
- コンピテンシースタンダードと能力評価手法開発に関する話題提供とディスカッション

- 司会：玉田和恵 (江戸川大学)

- 話題提供者

- 松田稔樹 (東京工業大学)

- 問題解決のモデルとゲーミング教材

- 坂元章 (お茶の水女子大学)

- 文部科学省 情報活用能力調査に関して

- 大久保智哉 (大学入試センター)

- 高大接続試験と能力測定方法

- 指定討論者：萩生田伸子 (埼玉大学)

- 16:10~16:40
- 今後のSIGの進め方に関するディスカッション

※会場は、A303です

3年間の活動計画案

- 目標：今後の学習指導要領改訂に継続的に寄与するため、コンピテンシー規準の検討に主眼を置きつつ、学校での評価や高大接続テストに役立つ評価方法論を関連づけて議論する
- 方法：育成すべき資質・能力には、多様な考え方があるべきで、発起人メンバー以外のアプローチも積極的に取り入れる工夫をする。スタンダードの作成・公開を進めながら、a) コンピテンシー育成・評価の基盤となる学習者モデルの提案、b) ゲーミング手法やICTを活用した指導・評価方法の提案、c) 指導・評価方法の授業設計手法や教師教育への展開といったテーマでサブグループを構成し、勉強会や研究発表会を開催する。
- 他分野との連携等：他のSIGとの連携や他学会等との連携も図る。他SIGとの共同開催や他SIGの中でセッションを設けてもらうなどの方策以外に、各SIGに広報し、参加を呼びかける。他学会等との合同研究会やシンポジウムなども企画する。



今後の展望

- 以下は勉強会や研究発表会を開催する可能性がある連携先の学会、研究会等の開催予定日です。
 - 日本シミュレーション&ゲーミング学会 (12月5~6日 福岡、 来年5月末 横浜)
 - 日本教育工学会研究会 (12月12日 新潟、 3月5日 香川、 5月 場所未定)
 - 日本教育工学会総会・シンポジウム (来年6月 東工大で開催の場合)
- 今後のお知らせは、学会ホームページから登録できるSIG活動用のメーリングリストとWebページで行います。
ただし、学会Webページとの連携が現時点でできないため、当面、www.et.hum.titech.ac.jp/SIG-10/ に掲載